

76巻4号

2021年10月1日

# YAA 天文会報

(10~12月号)

790号

〒226-0016

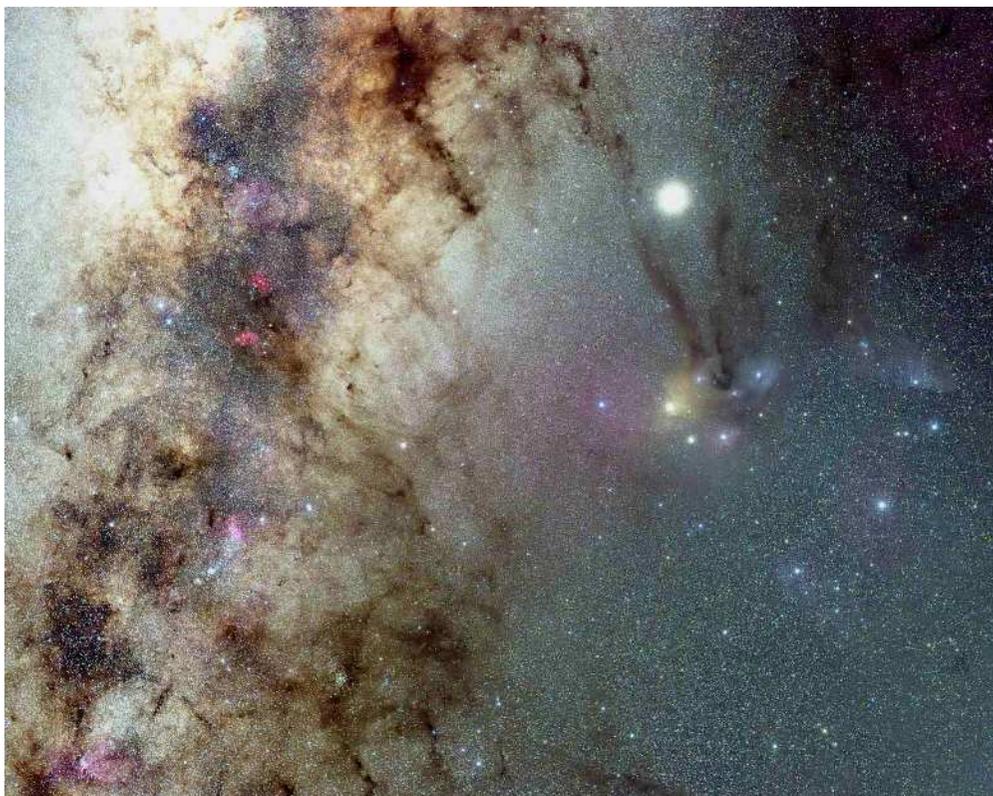
横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



さそり座

撮影：山形幹夫

---

## 観望ガイド

正木

秋の彼岸も過ぎ、日の入りがどんどん早くなり、気が付くと外がすっかり暗くなっていて驚きます。

今年の夏は天気になかなか恵まれず、考えていた写真も撮れませんでした。先日の中秋の名月は私の住む横浜北西部では予報より雲が切れている時間も長く、ゆっくりお月見ができました。

10月の天象は、金星が30日に東方最大離角となります。しかし、秋に東方最大離角を迎えると金星の高度は高くないため、最も高くなるときでも日没時の高度は約20度ほどです。そして9日から10日にかけて、細い月が金星に近づきます。



—雲間からのぞく中秋の名月—

9日には金星の右側に月が見え、10日には金星の左上へ移ります。さそり座のアンタレスも近くに見えています。

11月は、19日の夕方から宵にかけて、全国で部分月食が見られます。食の最大は18時03分です。今回の部分月食は月の大部分が本影に入り皆既月食に近いので、影の部分がどのような色に見えるか楽しみです。

8日の昼間に金星食があり、夕方の空で食が終わったばかりの金星が月と接近して見られます。

12月というふたご座流星群ですが、今年の極大は12月14日16時頃と日本では昼間になってしまいます。そのため13日夜から14日明け方と、14日夜から15日明け方にかけて多くの流星を見ることができると思います。また深夜まで上弦過ぎの月があるため、月沈後から明け方にかけて条件良く見ることができます。4日に宵の明星の金星が最大光度を迎え、光度は $-4.7$ 等になります。10月の東方最大離角から地平線からの高度がほとんど変わらなかった金星ですが、年末に向かって徐々に高度が下がっていきます。そこへ木星と土星が近づいてきます。西(右)側から金星・土星・木星の順に、日没後の空で等間隔に並んで見えるようになります。

早いもので、次号は2022年となります。新型コロナの先もまだ見えず、インフルエンザも心配ですが、皆さまお体ご自愛ください。

---

### 【例会】

決まり次第ホームページにてお知らせします。

## 新技術のカメラのお話し

山形幹夫

今年の夏も天候不順で中々晴れませんでしたね。たまに晴れた時も仕事の都合で休みが取れず、結局4月に撮影に出かけたのが最後となっています。そこで今回は最近とても感心した新発売の新技術のカメラのお話しです。

そのカメラですが、残念ながら現在個人で購入できるようなお値段ではないようです。ジャンボ宝くじに当たればという価格帯と想像しています。カメラの発売元は浜松ホトニクス株式会社（以下、浜ホト）です。科学計測用カメラの新しい歴史の幕開け、と謳ったqCMOS™素子を搭載したC15550-20UPという機種です。浜ホトのカメラで最も高額のようなようです。この素子は現状究極の高感度・低ノイズ性能のようで、光電子数の識別を実現しているそうです。素子のサイズは18.841×10.598mmで4/3” マイクロフォーサーズとほぼ同じ、ピクセルサイズは $4.6\mu\text{m}$ 、裏面照射型、モノクロ、冷却式です。天文への応用例として短時間撮影で大気ゆらぎ安定したラッキーイメージングがWebで紹介されています。そのオリオン座大星雲の画像は一見の価値があり、URLをご紹介します。

<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/product/type/C15550-20UP/index.html>

浜ホト社員のUT0さん撮影で、1画像の露光時間は2秒でそれをコンポジット、浜松市内住宅街で撮影したそうです。アマチュア用冷却カメラと次元が違います。これ本当に欲しい、いつか。

さて、撮影に行けなかったので本号掲載の画像は2019年オーストラリアで撮影したものです。下の写真は南のかんむり座 $\alpha$ 星メリディアナ（左下寄り） $\gamma$ 星（中央） $\varepsilon$ 星（右）と球状星団NGC6723、6726、6729、付近の分子雲が写っています。



分子雲の濃い所は広角レンズでも黒くボツと写りません。望遠鏡タカハシFSQ-85EDP直焦点、カメラ：ニコンD810A、ISO3200、90秒、ややピン트가甘い。オーストラリア・チラゴ

表紙画像：さそり座 2019年7月、ニコンD810A、Nikkor 50mm、木星が明るい。

## 日月星の伝承を訪ねて (69)

横山好廣

由比の望月家を訪ねた折に、興津川水系における星の民俗調査を試みた。静岡県のお月見を特徴づけるヘソ餅の話を期待する調査でもあった。

- 調査地域---静岡市清水区興津川水系。興津川水系を大きく四つ(A~D)に分け、( )内に主な調査地を示した。
    - A、興津川中流域(小島・但沼・立花)
    - B、国道 52 号、小河内川流域(小河内・宍原)
    - C、中河内川流域(中河内・木山野)
    - D、興津川上流域(土・河内・大平)
- \* 右図『角川日本地名大辞典 22 静岡県』(角川書店 1982)中の A~D、宍原、小河内、土は筆者の加筆。



静岡市清水区

◎平成 24 年(2012)4 月 5 日・6 日、平成 28 年(2016)10 月 11 日調査

### A、興津川中流域 小島(おじま)・但沼(ただぬま)・立花地区

- ・月見---十五夜をしたら、十三夜もする(小島・立花)。
  - ・最近は十五夜だけの家が多くなった(但沼)。
  - ・十三夜の方が簡単だが、ヘソ餅は供える(小島)。
  - ・ススキ・萩・ヘソ餅・里芋・サツマイモ・果物などを供える(小島)。
  - ・お供えをすると良く出来ると言われてきた(小島)。稲や畑作物の予祝の観念が窺われる伝承である。
  - ・戸を開けままして、お供えは縁側に出して子ども達がお供えを盗りに来るのに備えておく。この日は、子ども達が各家を回ってお供えのヘソ餅などを挿して盗って歩くことが許されている(小島)。
  - ・子どもは月の代わりにお供えを貰って歩くのだと言われた(立花)。
  - ・ヘソ餅は上新粉を練って、平べったい形や円い形の頂きを指でへこませたもので、それを蒸籠で蒸して作る。ヘソ餅は焼いたり、黄な粉をまぶして食べた(小島)。
  - ・ヘソ餅は白い状態で供える。食べるときは焼いて砂糖醤油とかダシを付けて食べる。ヘソ餅は月見に限らず、おやつにもした(但沼)。
  - ・子どものいる家は、子ども達が他所の家にヘソ餅などのお供えを盗

- りに行くので、自分の家でも必ず月見をする(但沼)。
- ・二十三夜様---おばあさん達が毎月のように二十三夜様にお参りに行っていた。そこにはお堂があったが、今は荒れてどうなっているかわからない(但沼)。70代農夫からの情報。
  - ・二十三夜様はつり橋の向う側にあり、今も講をやっているのでは、そこにはお地藏様を祀っている(但沼)。70代主婦からの情報。以上二つの情報からは、但沼の辺りで、かつて二十三夜待が行なわれていたことは確かなようである。
  - ・七夕---七夕が終わると七夕飾りは川に流した(小島)。

◎平成 24 年(2012)4 月 5 日・6 日調査

**B,国道 52 号、小河内川流域** 小河内(こごうち)・宍原(ししはら)地区

- ・月見---片飾りをしないということで、十五夜・十三夜をともにする。ススキ・萩・ヘソ餅・里芋・サツマイモ・野菜などを供えた(小河内)。
- ・ヘソ餅は煮て砂糖醤油で食べた(小河内)。片飾りという言い方が独特で面白い。
- ・ヘソ餅は月見のときだけに作り、お皿に 15 個盛り付ける。里芋や大根も一緒に供え、ススキ・萩・ケイトウは一升瓶にさす(宍原)。
- ・かつては、月見の晩に子ども達が針金などで供え物を盗ることや柿とかボタンキョウ(プラム)などのように木に成る物を盗ることが許されていたが、今は子ども達はヘソ餅を貰いに来るので、各家で餅や菓子を袋に入れて用意しておき、直ぐに渡せるようにしている。この噂を聞いて、他地区の子ども達も貰いに来る。数年前にはこの様子が静岡の TV 局で放映されたことがある(宍原)。

\*現地ではヘソ餅の撮影が出来なかったため、ヘソ餅の写真は、ハマラボ「ハママツ研究所」の情報ブログに依った。



ヘソ餅

- ・七夕---七夕が終わると七夕飾りを川に流した(小河内)。
- ・タナバタボシと言っていたが、星のことはよく分からない(小河内)
- ・8月7日の早朝、天からの穢れのない夜露(里芋の葉)を集めて墨を摺り、短冊に願い事を書き、笹竹に吊るして七夕様に供える。翌日、笹竹を大根畑や白菜畑に立てると虫がつかないと言われた(宍原)。
- ・田打ち講---正月 11 日。
- ・朝早く田に行って東を向いて田を起こしてから、朝日を拝む。このと

---

きは、幣束、餅を供えて昇って来る太陽を拝み、太陽の恵みに感謝し、今年の豊作を祈る。太陽は恵みのもと(宍原)。農耕儀礼の一つ。太陽信仰・日迎への要素が濃厚なので取り上げた。

- ・ 星名----オテントウサマ (太陽)  
ノノサマ (月)  
アケノミョウジョウ・ヨイノミョウジョウ (金星)  
ナナツボシ (北斗七星)  
ミツボシ (オリオン座三星)  
ナガレボシ (流星) (宍原)

\* 宍原の調査では大木守彦氏 (当時 83 歳) ご夫妻に大変お世話になったことを銘記し、改めて感謝の意を表します。

◎平成 24 年(2012)4 月 6 日、平成 28 年(2016)10 月 11 日調査

**C、中河内川流域** 中河内(なかごうち)地区

- ・ 月見----ススキ・萩は一升瓶に挿し、ヘソ餅・里芋・サツマイモ・栗などを供える。ヘソ餅は黄な粉をまぶして食べる(中河内)。
- ・ お月見の晩には、子ども達が「チョウダイ」とか「貰います」と言っ  
て竹の棒の先などで供え物を突いて盗っていった。80 歳になる  
ご婦人は、この子ども達の盗りに来る様子がとても可愛かったと、  
昔のことを殊更に懐かしむ風であった(中河内)。
- ・ 最近では、お月見が十五夜だけの家が多く、ヘソ餅は作らないで買っ  
てくるようになった(中河内)。
- ・ 十三夜をする家は少ない。十五夜をやる家はヘソ餅を菓子屋に頼ん  
でいるようだ(中河内)。
- ・ 十五夜だけお月見をする。そのときはヘソ餅を作る。ヘソ餅は上新  
粉を練って指で押して凹ませ蒸して作る(バス停・木山野)。
- ・ 供え物はススキ・ヘソ餅・お菓子など。ヘソ餅は何もつけない真っ  
白なもので、その数は決まっていない(バス停・木山野)。
- ・ 供え物は玄関先に机を出し、そこに並べる。こうしておくとお供え物  
を盗りに来た子ども達が盗りやすい。盗るときは棒などを使わない  
で直接手で盗っていく(バス停・木山野)。
- ・ 子どもがいる家では自分の子が他所へお供え物を盗りに行くので、  
自分の家でも月見をする。中河内小学校の全児童数は 36 人、この  
近くには 2 人しかいない(バス停・木山野)。
- ・ 子ども(孫)がいるので、月見をしている(中河内)。

(つづく)

---

# 天 象

相原 榮

## 10月

水星: 中旬以降明け方の東天で高度を上げる、観望好期 +1.4~-0.8等 おとめ座  
金星: 夕方の西天で高度を上げる、宵の明星 -4.0~-4.4 さそり→へびつかい座  
火星: 太陽方向、観望困難 +1.7~+1.6等 おとめ座  
木星: 宵に南中、夜半頃沈む -2.7~-2.5等 やぎ座  
土星: 宵に南中 +0.5~+0.6等 やぎ座

6日 20h05m 新月	15日 20h 月と木星が接近
8日 10h39m 寒露	20日 23h57m 満月
9日 03h 10月りゅう座流星群が極大の頃	21日 20h オリオン座流星群が極大の頃
13日 12h25m 半月(上弦)	23日 13h51m 霜降
14日 19h 南天で月と土星が接近	29日 05h05m 半月(下弦)

## 11月

水星: 明け方の東天、中旬以降高度を下げる -0.8~-1.2等 おとめ→さそり座  
金星: 夕方の南西天で高度を上げる -4.4~-4.6等 いて座  
火星: 明け方の東南東天低空 +1.6等 おとめ→てんびん座  
木星: 夕方南中し夜半前に沈む -2.5~-2.3等 やぎ座  
土星: 夕方南中し、夜半前に沈む +0.6~+0.7等 やぎ座

4日 06h 月と水星・火星が集合	12日 おうし座北流星群が極大の頃
5日 06h15m 新月	18日 02h しし座流星群が極大の頃
おうし座南流星群が極大の頃	19日 17h57m 満月(皆既に近い部分月食)
7日 13h59m 立冬	22日 11h34m 小雪
8日 宵の西天で月と金星が接近	27日 21h28m 半月(下弦)
11日 21h46m 半月(上弦)	

## 12月

水星: 夕方の西南西天で高度を上げる -1.21~-0.7等 へびつかい→いて座  
金星: 夕方の南西天で輝く、後半高度を下げる -4.6~-4.9~-4.3等 いて座  
火星: 明けの東天で高度を上げる +1.6~+1.5等 てんびん→さそり→へびつかい座  
木星: 夕方の南西天 -2.3~-2.1等 やぎ→みずがめ座  
土星: 宵の南西天 +0.7~+0.8等 やぎ座

4日 16h43m 新月(南極で皆既日食)	14日 16h ふたご座流星群が極大の頃
7日 06h57m 大雪	19日 13h36m 満月
宵の南西天で月と金星が接近	20日 12月かみのけ座流星群が極大の頃
8日 宵の南西天で月と土星が接近	22日 00h59m 冬至
9日 宵の南西天で月と木星が接近	23日 16h こぐま座流星群が極大の頃
11日 10h36m 半月(上弦)	27日 11h24m 半月(下弦)

---

### 【お知らせ】

川崎天文同好会様より、会報誌交換の申し出がありました。YAA天文会報は川崎天文同好会会員向けサイトに掲載されます。川崎天文同好会機関誌“星”を閲覧希望される会員は正木までメールをください。